2021年3月期 連結決算概況
2022年3月期 通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2021年5月7日

（スライド1）

- CFOの武田でございます。

- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2021年3月期　決算説明会」にご参加いただき誠に有難うございます。

- まず、私から2021年3月期の連結決算概況、および2022年3月期の通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

OLYMPUS

Page 2
OLYMPUS

ハイライト

2021年3月期 実績

- ☑ 売上高： 下期は顕著な売上回復が見られ、通期では▲3%の減収まで回復
  特に第4四半期は、内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を実現し、大幅な増収
- ☑ 営業利益： 通期の営業利益率は11%と、2月時点の見通しを上回る
  第4四半期は、今後の成長に向けた投資や施策を実行しながらも増収により増益
- ☑ 配当： 2月時点の10円から2円増となる、12円に増配

2022年3月期 通期業績見通し

- ☑ 売上高： 市場環境の回復を受け、全事業で増収し、10%の成長を見込む
- ☑ 営業利益： 前年比約50%増の1,260億円、営業利益率は約16%となり、額・率ともに過去最高
- ☑ 当期利益*：過去最高の890億円となる見込み
- ☑ 配当： 前年比2円増となる、14円に増配予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

（スライド3）

- スライド3ページをご覧ください。
- 2021年3月期の連結業績における主なポイントです。
- まずは売上高です。下期から回復基調となり、特に第4四半期は、内視鏡事業・治療機器事業ともに2桁成長を実現し、大幅な増収となりました。
- 年度後半の顕著な回復を受け、通期連結売上高は2月公表の見通しを上回り、3%の減収に留まりました。
- 通期の営業利益率は11.2%となり、見通しを上回りました。
- 第4四半期は、今後の事業成長と効率性向上に向けた投資や施策を実行しながらも増収を主要因に増益となりました。
- なお、配当は一株あたり10円予想から2円増額し、12円といたします。
- 続いて2022年3月期の通期業績見通しです。
- 売上高は、市場環境の回復を受け、全事業で増収、10%の成長を見込んでおります。
- 営業利益は、前年から約50%増の1,260億円、営業利益率は約16%、当期利益も890億円といずれも過去最高となる見通しです。
- 2022年3月期末の配当は、前年比2円増となる、14円に増配予定です。

OLYMPUS

01 2021年3月期 連結業績および事業概況

（スライド4）

- それでは、2021年3月期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2021年3月期 通期実績 ①連結業績概況

1 売上高： 通期では▲3%の減収まで回復。特に4Qは市場環境の回復を受け、内視鏡事業、治療機器事業ともに2桁成長

2 営業利益：通期では2月時点の見通しを上回る実績。4Qは社外転進支援制度に伴う費用（約120億円）を計上するも、売上の回復により増益

		通期実績（4-3月）			参考数値		第4四半期実績（1-3月）			
	（単位：億円）	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後**	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
継続事業*	売上高	7,552	1 7,305	▲3%	▲2%	▲320億円	1,939	1 2,170	+12%	+11%
継続事業*	売上総利益（売上総利益率）	4,828 (63.9%)	4,595 (62.9%)	▲5%	▲3%	-	1,152 (59.4%)	1,360 (62.7%)	+18%	+19%
継続事業*	販売費および一般管理費（販売費および一般管理費率）	3,812 (50.5%)	3,570 (48.9%)	▲6%	▲6%	-	1,030 (53.1%)	1,069 (49.3%)	+4%	+3%
継続事業*	その他の収益および費用等	▲94	▲205	-	-	-	▲47	▲119	-	-
継続事業*	営業利益（営業利益率）	922 (12.2%)	2 820 (11.2%)	▲11%	▲4%	-	75 (3.9%)	2 173 (8.0%)	+129%	+147%
継続事業*	税引前利益（税引前利益率）	866 (11.5%)	768 (10.5%)	-			61 (3.1%)	149 (6.9%)	-	
継続事業*	継続事業からの当期利益（継続事業からの当期利益率）	606 (8.0%)	657 (9.0%)	+51億円			▲50 (-)	117 (5.4%)	+167億円	
非継続事業	非継続事業からの当期利益 (損失)	▲89	▲527	▲438億円			▲25	▲4	+21億円	
継続事業 非継続事業	当期利益	517	130	▲387億円			▲75	113	+188億円	
継続事業 非継続事業	親会社の所有者に帰属する当期利益	517	129	▲388億円			▲75	113	+188億円	
継続事業 非継続事業	EPS	39円	10円				-	-		

*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

**COVID-19の影響がなければ、前年実績は達成できたという前提で、為替影響、その他損益、一時要因（市場対応費用、自主回収費用、M&A）を除いた前年同期と比較して算出

2021年3月期配当
年間配当12円

OLYMPUS

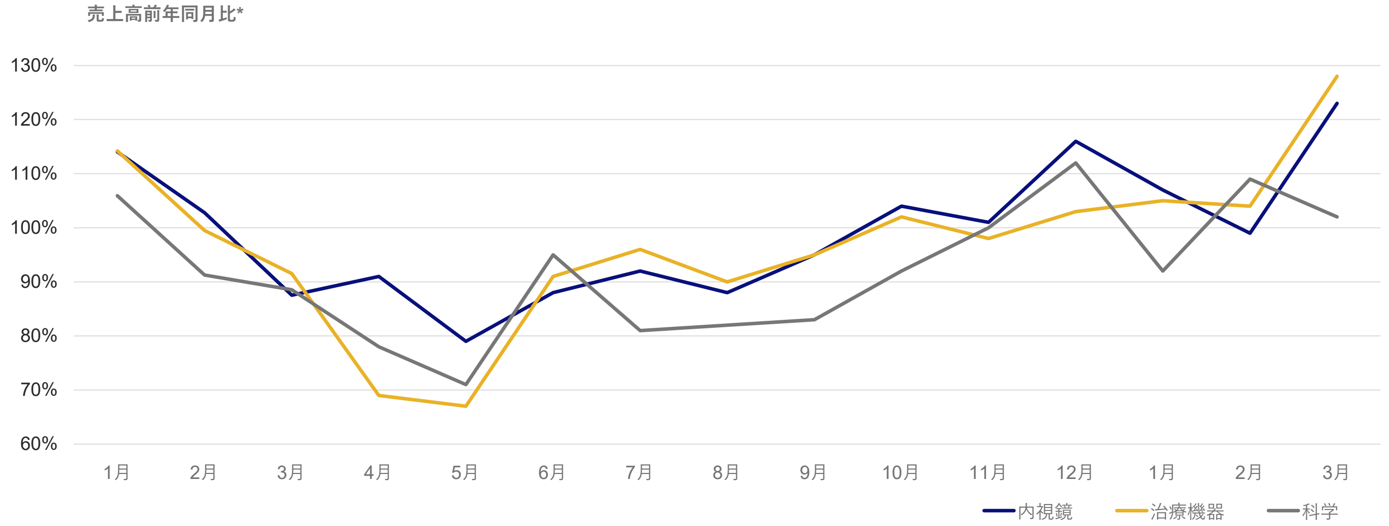
（スライド5）

- スライド5ページをご覧ください。こちらは連結業績の概況となります。
- 4月30日に適時開示で発表の通り、連結全体で事業が堅調に推移したことにより、売上高、各段階利益は2月時点の見通しを上回りました。なお、当期利益は法人税費用が想定以上に減少したこともあり、2月時点の見通しを大幅に上回っています。
- 通期の連結売上高は7,305億円です。上期に新型コロナウイルスの影響を受けたものの、下期から市場環境の回復が見られ、特に第4四半期は内視鏡事業・治療機器事業とも2桁成長となりました。その結果、3%の減収に留まりました。
- 売上総利益は、4,595億円でした。新型コロナウイルスの影響による操業度低下に加え、内視鏡製品や処置具の自主回収費用を計上する等、原価率を押し上げる要因がいくつかありましたが、減少率は年度後半に向かって大幅に改善しました。
- 販管費は3,570億円でした。活動の制約があったことに加え、引き続き厳格な管理や効率化を進める一方で、必要な投資や施策も実行した結果、販管費率は48.9%と50%を切る水準となりました。
- その他の費用は増加しております。通期予想に含まれておりますが、主に第4四半期に社外転進支援制度に伴う費用を約120億円計上したためです。なお、第4四半期はこの費用を吸収した上でも増益となりました。
- 営業利益は820億円、営業利益率は11.2%でした。僅かですが、2月時点の見通しを上回っております。
- 継続事業の当期利益は、657億円でした。映像事業の譲渡に関連して法人税費用が大きく減少し、通期で前年比8%の増益となりました。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、130億円でした。映像事業の譲渡契約締結に伴う損失約500億円を計上したものの、2月時点の見通しを大きく上回りました。
- 2021年3月期末の配当につきましては、安定的かつ継続的に増配していくという方針の下、直近の好調な業績も踏まえ、2月公表の10円より、2円増配となる12円とさせていただきます。

OLYMPUS

月次売上高推移（2020年1月～2021年3月）

2020年3月は新型コロナウイルスの影響を受けたものの、
2021年3月は市場環境の回復を受け、内視鏡事業で+23%、治療機器事業で+28%の成長



*為替影響調整後

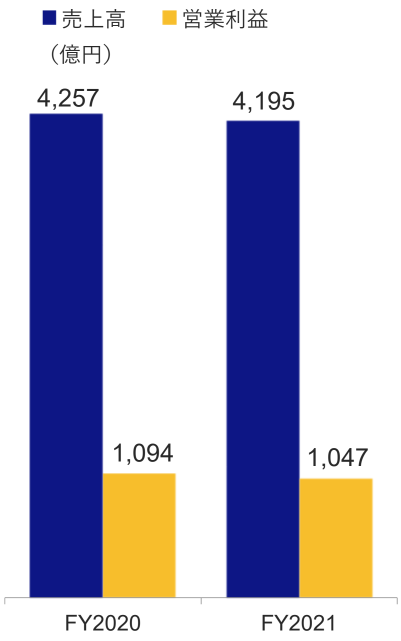
OLYMPUS

（スライド6）

- スライド6ページをご覧ください。
- 月別の売上高の状況についてご説明申し上げます。
- このグラフは、前年売上高を100%として事業別の月次の売上高推移を示すものです。
- 期初には非常に厳しい通期業績も覚悟せざるを得ない状況でしたが、月を追うごとに回復し、下期、第4四半期ともにプラス成長となりました。
- 特に3月は、前年同期比で、内視鏡事業は23%、治療機器事業は28%成長を実現しています。

OLYMPUS

2021年3月期 通期実績 ②内視鏡事業



売上高
- 通期：英国・東欧が好調に推移した欧州と中国で増収。先端キャップ着脱式十二指腸内視鏡、気管支内視鏡の売上増加
- 4Q：市場環境の回復を受け、北米・中国・日本で2桁成長。「EVIS X1」及び十二指腸内視鏡、気管支内視鏡の売上が拡大

営業利益
- 通期：内視鏡の自主回収費用（約60億円）や、社外転進支援制度に伴う費用（約40億円）を計上するも、売上の回復等により、為替を除く実質ベースで前年並みの水準を確保
- 4Q：前年同期に十二指腸内視鏡対応費用（104億円）を計上しており、大幅な増益

	通期実績（4-3月）				第4四半期実績（1-3月）			
単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	4,257	4,195	▲1%	▲1%	1,106	1,250	+13%	+12%
営業利益	1,094	1,047	▲4%	0%	178	280	+57%	+61%
その他の損益*	▲19	▲61	-	-	▲12	▲48	-	-
営業利益率	25.7%	25.0%		25.8%	16.1%	22.4%		23.2%

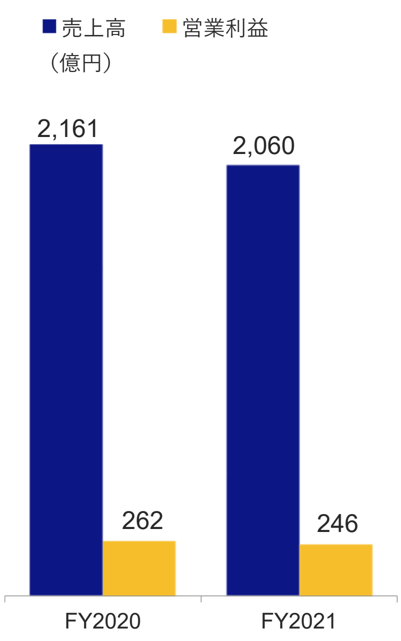
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	FY2021 4Q
売上高前年同期比	▲17%	▲8%	+4%	+13%
為替影響調整後	▲14%	▲7%	+6%	+12%
営業利益率	18.5%	26.7%	30.9%	22.4%
為替影響調整後	19.4%	28.2%	30.9%	23.2%

（スライド7）

- スライド7ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。
- まず内視鏡事業です。
- 通期の売上高は4,195億円でした。後半の市場回復を受け、為替を除く実質ベースで1%の微減に留まりました。
- 地域別では、英国・東欧が好調に推移した欧州と中国で増収となり、製品別では、先端キャップ着脱式十二指腸内視鏡、気管支内視鏡の売上が増加しました。
- 第4四半期は、第3四半期に引き続き、大幅な増収です。
- 市場環境の回復傾向が継続し、中国、北米、日本で2桁成長となりました。中国では前年同期比で新型コロナウイルスの影響を受けていたため、特に増収幅が大きく、北米では市場環境の回復に加えスコープの拡販を進めました。また、日本では補正予算を受けた公立・国立病院を中心に設備投資が活発化し、増収となりました。製品別では、「EVIS X1」システム、スコープに加え、十二指腸内視鏡、気管支内視鏡も売上の増加に寄与しています。
- 通期の営業利益は1,047億円、為替を除く実質ベースの営業利益率は25.8%となりました。内視鏡の自主回収費用約60億円や社外転進支援制度に伴う費用約40億円を計上するも、売上の回復等により、為替を除く実質ベースで前年並みの水準を確保しました。
- 第4四半期は、社外転進支援制度に伴う費用を計上するも、前年同期に十二指腸内視鏡対応費用104億円を計上していることもあり、為替を除く実質ベースで61%の大幅増益となりました。

2021年3月期 通期実績 ③治療機器事業



売上高
- 通期：下期から症例数の回復傾向がみられ、減少幅が大幅に縮小
- 4Q：市場環境の回復を受けて、全ての地域でプラス成長となり、特に前年同期に新型コロナウイルスの影響を受けた中国が好調に推移。呼吸器科処置具と泌尿器科製品が牽引

営業利益
- 通期：減収および処置具の自主回収費用（約20億円）等を計上するも、販管費の抑制等により、為替を除く実質ベースで営業利益率は0.5ポイント改善
- 4Q：社外転進支援制度に伴う費用（約15億円）を計上するも、売上の回復を主要因として増益

	通期実績（4-3月）				第4四半期実績（1-3月）			
単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	2,161	2,060	▲5%	▲4%	525	599	+14%	+13%
営業利益	262	246	▲6%	0%	37	43	+18%	+26%
その他の損益*	▲20	▲28	-	-	▲9	▲21	-	-
営業利益率	12.1%	12.0%		12.6%	7.0%	7.2%		7.8%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	FY2021 4Q
売上高前年同期比	▲27%	▲6%	▲1%	+14%
為替影響調整後	▲24%	▲6%	+1%	+13%
営業利益率	3.8.%	16.6%	18.3%	7.2%
為替影響調整後	4.5.%	18.0%	18.4%	7.8%

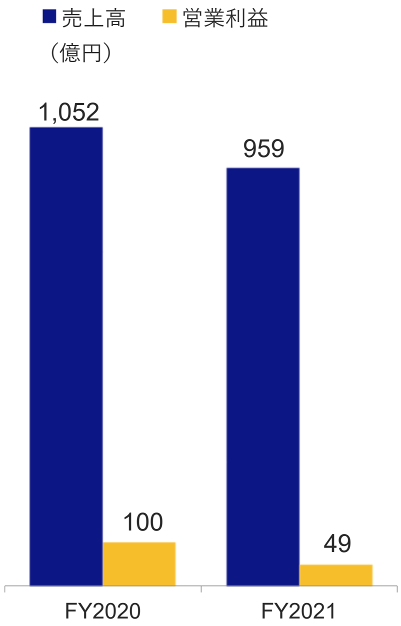
Page 8
OLYMPUS

（スライド8）

- スライド8ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。
- 通期の売上高は2,060億円でした。治療機器事業も下期からの回復を受け、為替を除く実質ベースで▲4%と減少幅が大幅に縮小しました。
- 第4四半期は、市場環境の回復を受けて、特に大幅な増収となりました。
- 全ての地域でプラス成長となり、特に前年同期に新型コロナウイルスの影響を受けた中国が好調に推移しました。製品別では、呼吸器処置具と泌尿器科製品の売上拡大がけん引しました。
- 通期の営業利益は246億円、為替除く実質ベースの営業利益率は12.6%となりました。
- 減収による売上総利益の減少に加え、処置具の自主回収費用約20億円等を計上しましたが、販管費の抑制、前年まで計上されていたGyrus社の無形資産の償却が本年度から計上されなくなったことによる効果等により、為替を除く実質ベースの営業利益率は前年比0.5ポイント改善しました。
- 第4四半期は、社外転進支援制度に伴う費用約15億円を計上するも、売上の回復を主要因として、為替を除く実質ベースで26%の大幅増益となりました。

OLYMPUS

2021年3月期 通期実績 ④科学事業



売上高
- 通期：中国の生物顕微鏡や工業用顕微鏡が好調に推移した一方、航空産業等での設備投資意欲の減退や販売活動の制約を受け、減収
- 4Q：市況の回復に伴い、予算執行及び設備投資状況に改善が見られ、生物･工業用顕微鏡、蛍光X線分析計が堅調に推移し、増収

営業利益
- 通期：減収および生産拠点の操業度低下を要因として減益
- 4Q：社外転進支援制度に伴う費用（約10億円）を計上するも、売上の回復と販管費の効率化により、為替を除く実質ベースで大幅な増益

	通期実績（4-3月）				第4四半期実績（1-3月）			
単位: 億円	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後	FY2020	FY2021	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,052	959	▲9%	▲8%	286	289	+1%	+1%
営業利益	100	49	▲50%	▲40%	20	20	+0%	+17%
その他の損益*	▲5	▲12	-	-	▲1	▲13	-	-
営業利益率	9.5%	5.2%		6.2%	7.0%	6.9%		8.1%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

	FY2021 1Q	FY2021 2Q	FY2021 3Q	FY2021 4Q
売上高前年同期比	▲21%	▲17%	▲1%	+1%
為替影響調整後	▲18%	▲17%	+1%	+1%
営業利益率	-	8.1%	10.3%	6.9%
為替影響調整後	-	10.0%	10.3%	8.1%

OLYMPUS

（スライド9）

- スライド9ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。
- 通期の売上高は959億円でした。年度後半に向けて回復傾向にあり、為替を除く実質ベース▲8%と減少幅は縮小しております。
- 中国の生物顕微鏡や工業用顕微鏡が好調に推移した一方、航空産業等での設備投資意欲の減退や販売活動の制約を受けました。
- 一方、第4四半期は、増収です。市況の回復に伴い、予算執行及び設備投資状況に改善が見られ、生物･工業用顕微鏡、蛍光X線分析計が堅調に推移しました。
- 工業用顕微鏡は5G関連の電子部品や半導体市場が活発であること、蛍光X線分析計は高値の金市場と好調な貴金属等のリサイクル市場が追い風となり、プラス成長となりました。
- 通期の営業利益は49億円、為替を除く実質ベースの営業利益率は6.2%となりました。
- 減収および生産拠点の操業度低下による売上総利益の減少が主な要因です。
- 第4四半期は、社外転進支援制度に伴う費用約10億円を計上した一方、売上が前年並みまで回復したことに加え、販管費の効率化を進め、為替を除く実質ベースで17%の大幅増益となりました。

OLYMPUS

財政状態計算書

☑ 新型コロナウイルスに対応した調達（社債、借入金）等により、現預金が増加
☑ M&Aを実施したことにより、のれんと無形資産が増加

（単位：億円）	2020年3月末	2021年3月末	増減額
流動資産	5,067	5,802	+735
棚卸資産	1,676	1,590	▲86
売却目的で保有する資産	63	1	▲62
非流動資産	5,090	6,009	+919
有形固定資産	2,021	2,390	+368
無形資産・その他	2,085	2,311	+226
のれん	983	1,308	+325
資産 合計	10,157	11,810	+1,654

	2020年3月末	2021年3月末	増減額
流動負債	3,338	3,284	▲54
社債及び借入金	810	315	▲495
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	42	-	▲42
非流動負債	3,099	4,571	+1,472
社債及び借入金	1,999	3,237	+1,238
資本	3,720	3,955	+235
自己資本比率	36.5%	33.4%	▲3.1pt
負債及び資本合計	10,157	11,810	+1,654

有利子負債：3,553（2020年3月末比+743）

OLYMPUS

（スライド10）

- スライド10ページをご覧ください。
- 2021年3月末の財政状態です。

- 新型コロナウイルスに対応した調達等により、現預金が増加しています。
- また、Veran Medical Technologies社等の買収を実施したことにより、のれんと無形資産が増加しています。
- 有利子負債の増加により、自己資本比率は前期末比で3.1ポイント減少し、33.4％となりました。

OLYMPUS

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： M&Aの実施による約450億円の支出、映像事業譲渡に伴う約280億円の支出等を考慮すると、FCFは前年並みの水準を確保
- ☑ 財務CF： 長期借入や社債発行による調達により、408億円のプラス

通期実績（4-3月）

（単位：億円）

			2020年3月期	2021年3月期	増減
継続事業		売上高	7,552	7,305	▲247
継続事業		営業利益	922	820	▲102
継続事業		営業利益率	12.2%	11.2%	▲1.0pt
継続事業	非継続事業	営業キャッシュフロー	1,335	1,241	▲94
継続事業	非継続事業	投資キャッシュフロー	▲624	▲1,189	▲565
継続事業	非継続事業	フリーキャッシュフロー	711	52	▲659
継続事業	非継続事業	財務キャッシュフロー	▲195	408	+603
		現金及び現金同等物期末残高	1,627	2,175	+548

（スライド11）

- スライド11ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、業績回復に伴う利益水準の改善を背景に、前年との減少幅がさらに縮小し、1,241億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、M&Aの実施による約450億円の支出、映像事業譲渡に伴う約280億円の支出等がありましたが、仮にこれらを足し戻すと、フリーキャッシュフローは前年並みの水準です。
- 財務キャッシュフローは、長期借入や社債発行による調達により、603億円増加、408億円となりました。
- 結果、3月末の現金及び現金同等物残は548億円増の2,175億円となりました。

OLYMPUS

02 2022年3月期 通期業績見通し

（スライド12）

- 次に、2022年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

OLYMPUS

通期業績見通し ①連結業績

1 売上高： 市場環境の回復を受け、全事業で増収し、10%の成長を見込む
2 営業利益： 前年から約50%増の1,260億円、営業利益率は約16%となり、ともに過去最高
3 当期利益*： 過去最高の890億円となる見込み
4 配当： 2022年3月期末の配当は前年比2円増となる、14円に増配予定

（単位：億円）	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後前年比
売上高	7,305	1 8,060	+755	+10%	+7%
売上総利益 （売上総利益率）	4,595 (62.9%)	5,290 (65.6%)	+695	+15%	+11%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	3,570 (48.9%)	4,000 (49.6%)	+430	+12%	+10%
その他の収益および費用等	▲205	▲30	-	-	-
営業利益 （営業利益率）	820 (11.2%)	2 1,260 (15.6%)	+440	+54%	+41%
税引前利益 （税引前利益率）	768 (10.5%)	1,210 (15.0%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	129 (1.7%)	3 890 (11.0%)			
EPS	10円	69円			

2022年3月期配当
4 年間配当14円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

Page 13 OLYMPUS

（スライド13）

- スライド13ページをご覧ください。
- 2022年3月期の通期業績見通しです。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル108円、1ユーロ130円 としております。
- 売上高は、市場環境の回復と新製品の成長等により、全事業で増収し、10%の成長となる見通しです。
- 販管費は、前年比で増加する見込みです。工夫をしながらも活動はより活発になるという前提のもと費用が増加することに加え、運営基盤強化や収益性改善に向けた投資も計画しております。
- 営業利益は、前年から約50%増の1,260億円、営業利益率は約16%となり、また当期利益も890億円と、いずれも過去最高となる見通しです。
- 2022年3月期末の配当は、安定的かつ継続的に増配していくという方針の下、業績予想も踏まえ、前年比2円増となる14円に増配予定です。

通期業績見通し ②セグメント別業績

1 内視鏡： 消化器内視鏡システム「EVIS X1」を中心に拡販を進め、増収増益
2 治療機器： 症例数の回復による増収に加え、買収した企業の売上等により、大幅な増収増益
3 科学： 市場環境の回復と中国の売上成長に加え、販管費の効率化を進め、営業利益率は約10%を見込む
4 全社消去： 前期発生した映像事業譲渡関連費用、社外転進支援制度に伴う費用が減少

単位：億円		2021年3月期 通期実績		2022年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
内視鏡	売上高	4,195	1	4,450	+255	+6%	+3%
	営業利益	1,047		1,210	+163	+16%	+9%
治療機器	売上高	2,060	2	2,390	+330	+16%	+13%
	営業利益	246		390	+144	+59%	+47%
科学	売上高	959	3	1,080	+121	+13%	+10%
	営業利益	49		110	+61	+122%	+101%
その他	売上高	92		140	+48	+52%	+49%
	営業利益	▲7		▲40	▲33	▲33億円	▲33億円
全社・消去	営業利益	▲516	4	▲410	+106	+106億円	+112億円
連結合計	売上高	7,305		8,060	+755	+10%	+7%
	営業利益	820		1,260	+440	+54%	+41%

Page 14 OLYMPUS

（スライド14）

- スライド14ページをご覧ください。
- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業は、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を中心に拡販を進め、増収増益となる見込みです。
- 治療機器事業は、症例数の回復による増収に加え、買収した企業の売上等により、大幅な増収増益となる見通しです。
- 科学事業は、市場環境の回復と中国の売上成長に加え、販管費の効率化を進め、営業利益率は約10%を達成予定です。
- 全社消去は、前期発生した映像事業譲渡関連費用、社外転進支援制度に伴う費用が減少する等、大幅に改善する見込みです。
- この後はCEOの竹内から、2021年3月期の振り返り及び2022年3月期の経営方針につきまして、ご説明申し上げます。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

（スライド15）

- CEOの竹内です。
- 先ほど武田が申し上げました通り、2021年3月期は新型コロナウイルスの感染拡大という未曽有の事態に直面しましたが、年度後半にかけて売上が大きく回復し、売上、利益ともに2月に上方修正しました見通しを達成することができました。
- また、真のグローバル・メドテックカンパニーを目指し、さまざまな施策を実行に移した一年でもありました。
- 私からは先期の振り返り、および今期の経営方針につきまして、ご説明いたします。

OLYMPUS

OLYMPUS

01 真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換に向けて

（スライド16）

- まず、真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換に向けて、オリンパスが目指す方向性について、改めてご説明いたします。

事業の持続的成長と持続可能な社会の実現のために

6つの重要なESG領域を絞り込み、新たに追加した環境視点を含む5つのマテリアリティを特定

6つのESG領域に注力

コーポレートガバナンス	経済的持続性	製品の持続可能性
環境	人的資源	社会

オリンパスの重要課題（マテリアリティ）

- 医療機会の幅広い提供およびアウトカムの向上
- コンプライアンスおよび製品の品質安全性への注力
- 責任あるサプライチェーンの推進
- ダイバーシティ・インクルージョンの推進
- **社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献**

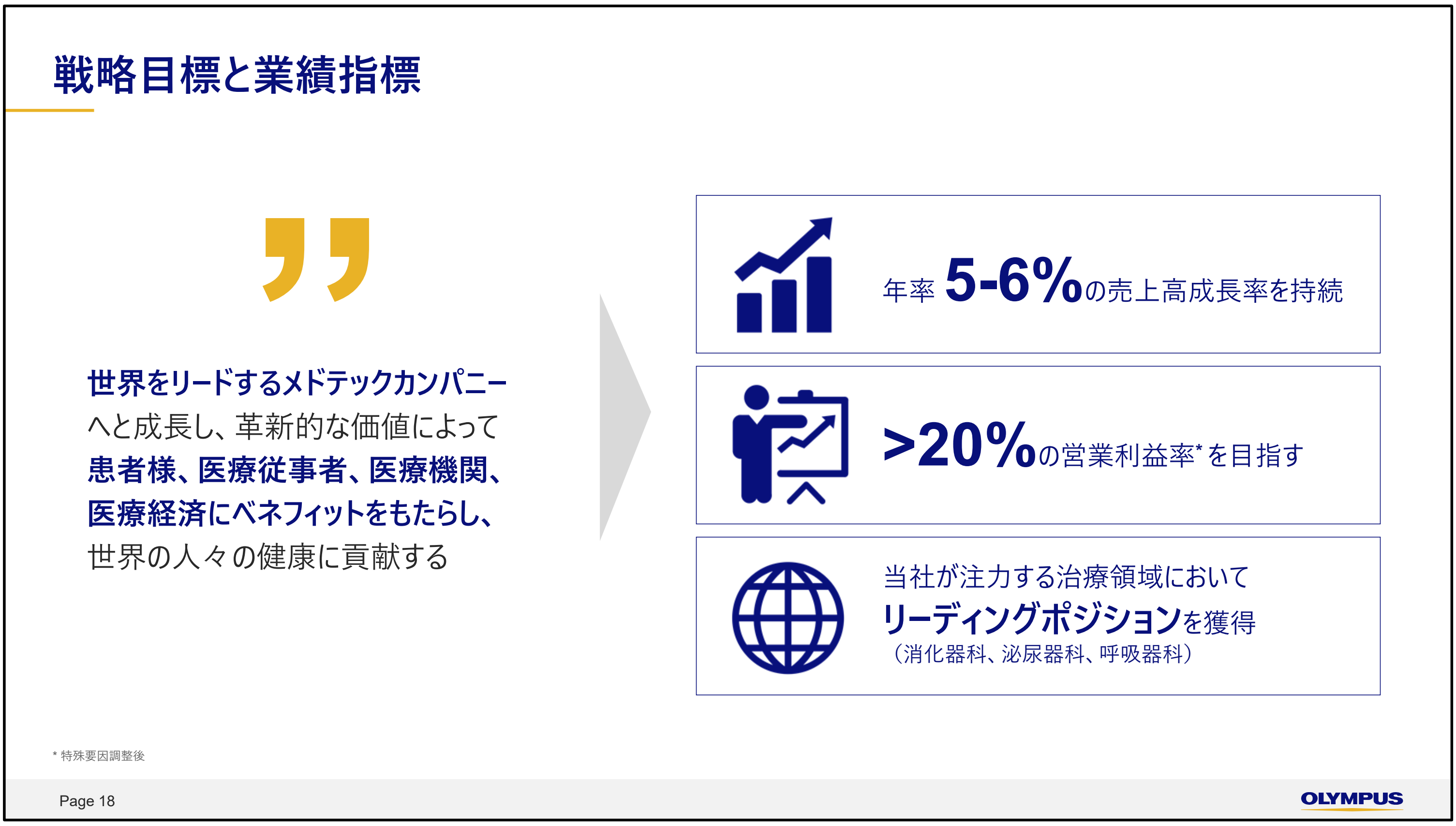
Page 17

OLYMPUS

（スライド17）

- スライド17ページをご覧ください。
- 最初にESGの取り組みについてご説明いたします。
- オリンパスは、経営理念に基づき、責任ある企業活動を通して、「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に努めており、2019年11月に発表した経営戦略においては、6つの重要なESG領域を絞り込み、4つの重要課題、マテリアリティを定めました。
- 今回、これに環境視点の「社会と強調した脱炭素・循環型社会実現への貢献」を加え、オリンパスの5つのマテリアリティを特定しました。
- 事業を通じて、これらの社会課題の解決に取り組むことにより、オリンパスの持続的成長と持続可能な社会を実現してまいります。

- また、昨日のニュースリリースでお知らせしました通り、オリンパスはTCFDの提言に賛同を表明するとともに、2030年までにカーボンニュートラルを実現する目標を設定いたしました。
- 今後もCO_2削減の取り組みの強化や、気候変動がもたらすリスクと機会の分析に焦点を置いた、透明性の高い情報開示に注力してまいります。
- そして、カーボンニュートラル目標の達成に向けて、製造改善活動や省エネ施策を引き続き推進するとともに、2030年までに自社の事業所における全消費電力を再生可能エネルギー由来に段階的に切り替え、CO_2削減の取り組みを加速させていきます。

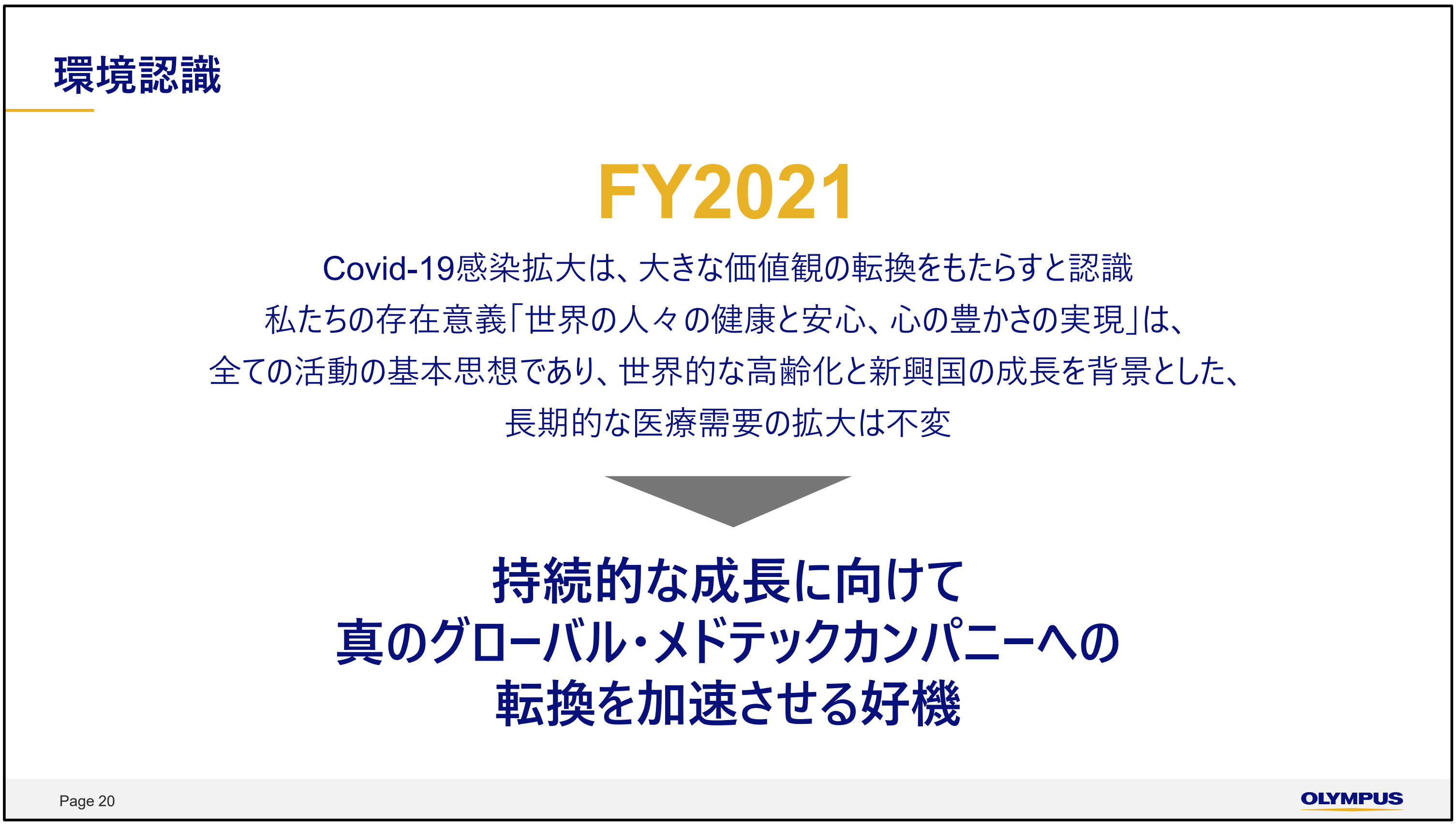


（スライド18）

- スライド18ページをご覧ください。
- 次に、経営戦略でお示しした、戦略目標と業績指標について改めて触れたいと思います。
- オリンパスは、世界をリードするメドテックカンパニーへ成長し、革新的な価値によって全てのステークホルダーにベネフィットをもたらし、世界の人々の健康に貢献することを戦略目標としています。
- この考え方に基づき、グローバルメドテックと同水準である年率5-6%の売上高成長率、20%を超える営業利益率を実現し、持続的に成長していくことを宣言しました。
- この目標に向けて、引き続き着実に改革を推し進めています。

（スライド19）

- それでは、ここからは経営戦略の初年度である2021年3月期について振り返りたいと思います。



（スライド20）

- スライド20ページをご覧ください。
- このスライドは、昨年の6月、新型コロナウイルス感染症の影響により通期見通しの公表を延期した際に示した、環境認識のスライドです。
- 新型コロナウイルスの感染拡大は、大きな価値観の転換をもたらすと認識していた一方、長期的な医療需要の拡大は不変と捉え、2021年3月期を持続的な成長に向けて、真のグローバル・メドテックカンパニーへの転換を加速させる好機だと位置づけました。

企業改革の断行

持続的な成長に向けて真のグローバル・メドテックカンパニーへの変革を加速

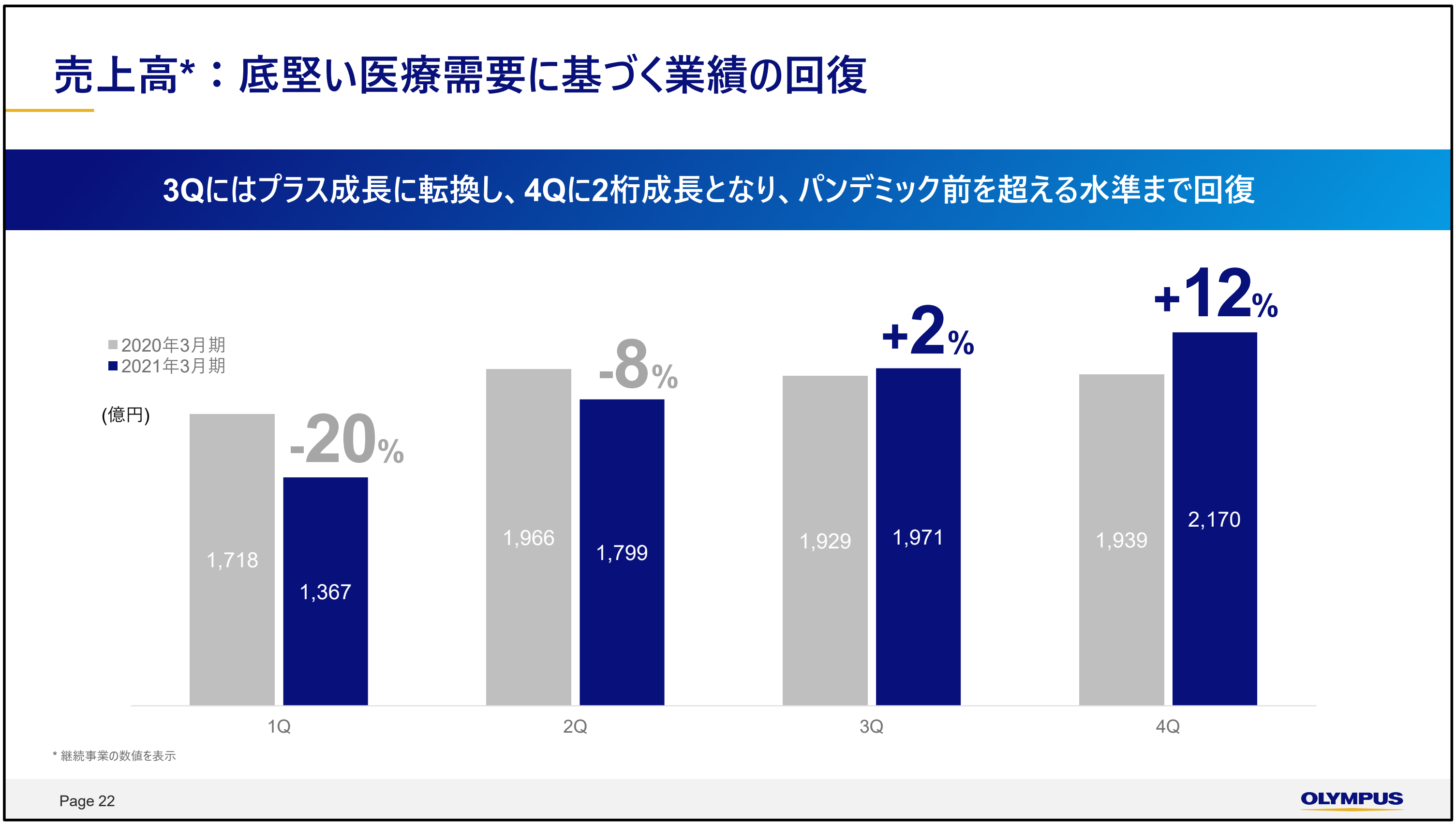
事業ポートフォリオの選択と集中	固定費の構造改革	次世代消化器内視鏡 EVIS X1の確実な市場導入	今後の成長を牽引する製品開発への着実な投資継続	効率的な研究開発
日本産業パートナーズ株式会社に映像事業の譲渡が完了	社外転進支援制度の実施	次世代消化器内視鏡「EVIS X1」を欧州・アジア一部地域、日本で発売（内視鏡CADプラットフォーム「ENDO-AID」を発売）	医療分野の成長に向けて複数のM&Aを実施（消化器科：Arc Medical Design社、呼吸器科：Veran Medical Technologies社、整形外科：FH ORTHO社、外科：Quest Photonic Devices B.V.社）	より効率的な製品開発を実現するため、開発組織を再編し、フロントフェーズでのコンカレントエンジニアリングを強化

OLYMPUS

（スライド21）

- スライド21ページをご覧ください。
- 先ほどの環境認識のもと、経営として、「2021年3月期はこの5つの施策を実行する」ことを表明しました。
- こちらに記載の通り、すべての施策をやり抜き、持続的な成長に向けて真のグローバル・メドテックカンパニーへの変革を加速させた1年でした。
- 一つ一つ振り返りますと、まず、「事業ポートフォリオの選択と集中」については、映像事業の譲渡を行い、「固定費の構造改革」については日本で社外転進支援制度を実施いたしました。
- いずれも長年の経営課題であり、経営陣としては大変厳しい決断ではありましたが、真のグローバル・メドテックカンパニーを目指し、パフォーマンス志向の組織へと変革するためには、避けて通れない施策と考え、実行いたしました。
- また、2020年の上期には、欧州、アジア一部地域、日本において、待望の消化器内視鏡の新製品「EVIS X1」をローンチしました。
- 各国の医師の皆様から高い評価をいただいており、今後オリンパスの業績を牽引していくと確信しています。
- 「今後の成長を牽引する製品開発への着実な投資継続」については、医療分野の成長に向けて、複数のM&Aを実施いたしました。買収した企業のポートフォリオや技術とのシナジーを高めることにより、持続的な成長に貢献することを期待しています。
- 最後に、「効率的な研究開発」については、フロントフェーズでのコンカレントエンジニアリングを強化する取り組みを進めてきました。この4月より、従来の製品別の開発組織から技術別の組織に再編し、効率的かつ迅速な製品開発を実現していきます。

OLYMPUS



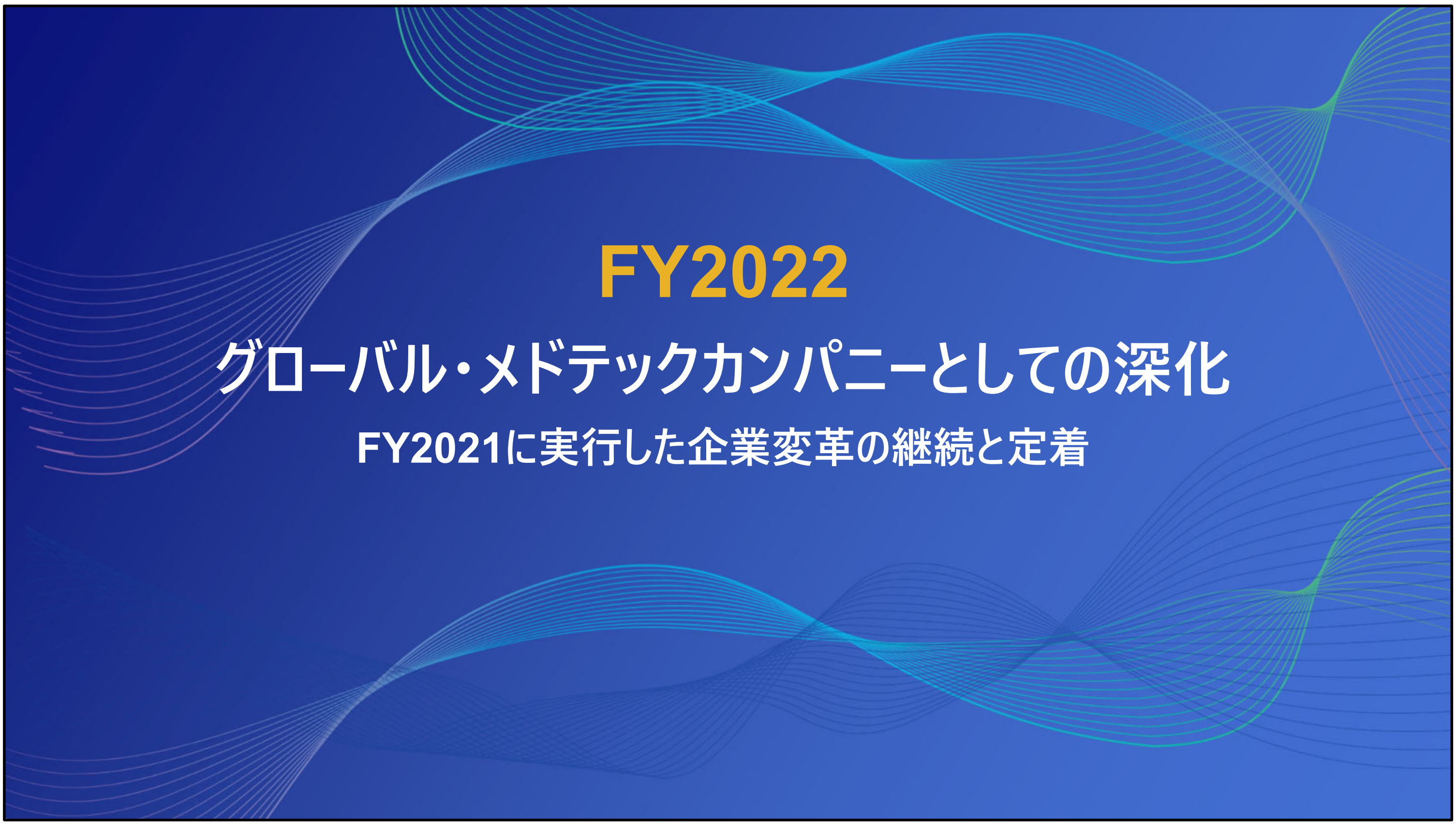
（スライド22）

- スライド22ページをご覧ください。
- 業績についても振り返りたいと思います。
- 期初の段階では、世界的なパンデミックという未曽有の事態によって、業績を見通すことも困難な状況であり、売上、利益が大きく落ち込む極めて厳しい1年になると想定していました。
- しかし、結果的には、第3四半期には前年同期比でプラス成長に転換し、第4四半期は前年同期比で12%成長を達成することができました。
- この第4四半期の実績はパンデミック前の2019年3月期の実績も上回る水準であり、早期診断、低侵襲治療に対する底堅い需要に支えられた結果だと考えています。

03 2022年3月期 経営方針

（スライド23）

- それでは、続いて2022年3月期の経営方針についてご説明いたします。



（スライド24）

- スライド24ページをご覧ください。
- 経営として、「グローバル・メドテックカンパニーとしての深化」を今期のテーマに掲げ、昨年に実行した企業変革の継続と定着に取り組んでまいります。

OLYMPUS

（スライド25）

- スライド25ページをご覧ください。
- 今期の重点施策はこちらの4点です。
- 先期はさまざまな企業変革を断行しましたが、今期も変革の手を緩めることなく、邁進してまいります。
- 現在のオリンパスは、これまで進めてきたグローバル・メドテックカンパニーへの「転換」から、「深化」を図るフェーズに入っていると捉えています。
- オリンパスは、約70年前に初めて実用的な胃カメラを開発してから、医師との二人三脚で製品や手技を開発し、消化器内視鏡の高いシェアに支えられて成長してきました。
- 医師との信頼関係に基づいて製品やソリューションを創出し、高い付加価値を提供するという最大の強みを活かしながら、今後も持続的に高い収益性を伴った成長を実現するためには、経営戦略でお示しした考え方に沿って、医療ビジネスの戦略をもう一段深化させる必要があると考えています。
- こちらにお示しした4つの重点施策への取り組みを着実に進め、今期も決算発表を始めとしたIRイベント等を通じて、皆様にご報告してまいります。
- なお、医療ビジネスの戦略については、現在、社内で検討を進めております。この後のスライドでご紹介するInvestor Dayにてご説明させていただく予定です。

（スライド26）

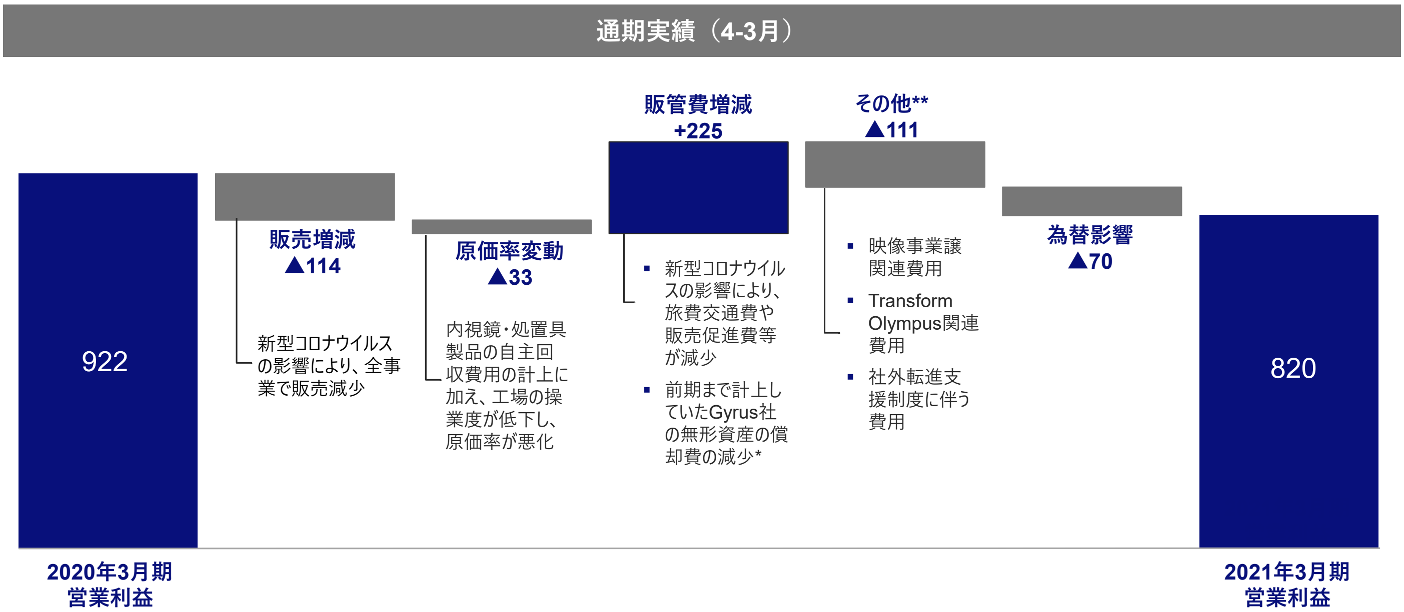
- スライド26ページをご覧ください。
- 今後のIRイベントについてお知らせいたします。
- 本年は3年振りに、Investor Day2021を開催予定です。
- 日時や内容等の詳細につきましては、決まり次第、改めてお知らせいたします。ぜひご参加ください。

- 最後になりました。
- 2021年3月期は、新型コロナウイルスの感染拡大という前例のない厳しい状況においても、企業改革を必ず断行するという強い意志を持って臨み、様々な施策を決断、実行した1年でした。
- 今期2022年3月期は、先期に行った数々の施策を成果へと結びつけ、パフォーマンス志向の文化を定着させる上で、大変重要な1年であると位置付けています。
- 経営が先導し、全社一丸となって企業変革をさらに推し進めてまいります。

- 引き続きステークホルダーの皆さまからのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

2021年3月期 通期実績 ①連結営業利益増減要因



（単位：億円）

*Gyrus社の無形資産の償却はFY2020に終了 **その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

Page 29

2021年3月期 通期実績 セグメント別概況

単位：億円		通期実績（4-3月）2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後	第4四半期実績（1-3月）2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	4,257	4,195	▲1%	▲1%	1,106	1,250	+13%	+12%
	営業利益	1,094	1,047	▲4%	0%	179	280	+57%	+61%
治療機器	売上高	2,161	2,060	▲5%	▲4%	525	599	+14%	+13%
	営業利益	262	246	▲6%	0%	37	43	+18%	+26%
科学	売上高	1,052	959	▲9%	▲8%	286	289	+1%	+1%
	営業利益	100	49	▲50%	▲40%	20	20	+0%	+17%
その他	売上高	82	92	+12%	+11%	22	32	+41%	+41%
	営業利益	▲29	▲7	+22億円	+22億円	▲9	8	+18億円	+18億円
全社・消去	営業損益	▲505	▲516	▲11億円	▲12億円	▲150	▲178	▲28億円	▲29億円
連結合計	売上高	7,552	7,305	▲3%	▲2%	1,939	2,170	+12%	+11%
	営業利益	922	820	▲11%	▲4%	75	173	+129%	+147%

OLYMPUS

OLYMPUS

プロダクトパイプライン：内視鏡事業（2021年5月7日時点）

経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化

リユース内視鏡の競争優位性の堅持
継続的な技術革新と販売力

シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充
リユース内視鏡を補完する製品ラインアップの提供

Growth driver now	Just launched / Coming soon	Beyond
消化器内視鏡 ▪ EVIS LUCERA ELITE（日本、中国） ▪ EVIS EXERA III（米国、欧州） **外科内視鏡** ▪ VISERA ELITE II*（米国、欧州、日本） ▪ VISERA ELITE（中国） ▪ VISERA 4K UHD（米国、欧州、日本、中国）	**消化器内視鏡** ▪ EVIS X1（欧州、日本） ▪ 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V（米国） ▪ 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID（欧州） **外科内視鏡** ▪ VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国) ▪ VISERA ELITE II 3D機能（中国）	**消化器内視鏡** ▪ EVIS X1（米国、中国） ▪ EVIS X1 3D機能 ▪ シングルユース十二指腸内視鏡 **外科内視鏡** ▪ VISERA ELITE II IR機能（中国） ▪ 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

~6%
内視鏡事業
年平均成長率**

*米国は2D機能のみ、欧州、日本は3D機能/IRを含むフルローンチ済 **2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

Page 31
OLYMPUS

プロダクトパイプライン：治療機器事業（2021年5月7日時点）

経営戦略：治療機器事業への注力と拡大

消化器科
既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大

泌尿器科
前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上

呼吸器科
オリンパスとVeran Medical社間で製品ポートフォリオのシナジーを創出し、投資と革新を継続すると共にBLVR*市場を拡大する

Growth driver now

消化器科
- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科
- 前立腺肥大症治療用切除デバイス

呼吸器科
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

Just launched / Coming soon

消化器科
- 5製品（米国）
- 5製品（欧州）
- 10製品（日本）
- 5製品（中国）

泌尿器科
- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイスiTind（米国、欧州）
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System（米国、欧州）

呼吸器科
- 電磁ナビゲーションシステム（米国）
- シングルユース気管支鏡（米国）

Beyond

消化器科
- シングルユース胆道鏡

泌尿器科
- シングルユース尿管鏡

呼吸器科
- 電磁ナビゲーションシステム（欧州）
- シングルユース気管支鏡

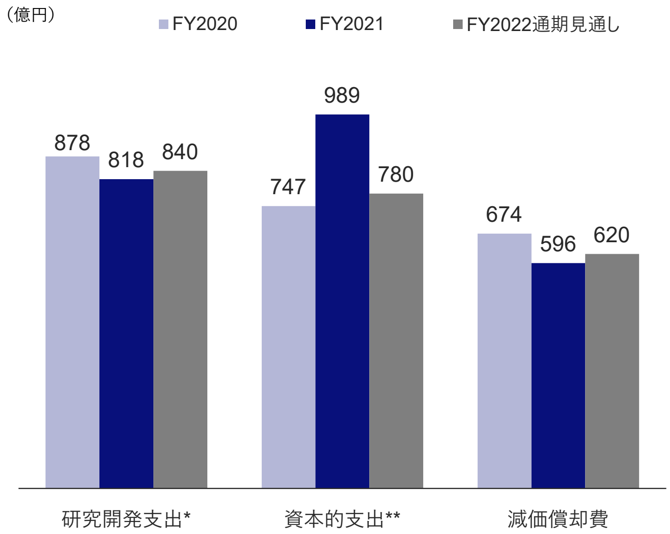
~8%
治療機器事業年平均成長率**

*Bronchoscopic Lung Volume Reduction **2020年3月期を起点に、2021年3月期から2023年3月期までのCAGR

Page 32
OLYMPUS

投資等

通期実績（4-3月）および通期見通し



（単位：億円）	FY2020	FY2021
研究開発支出* (a)	878	818
開発費資産化 (b)	230	161
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	648	657

（単位：億円）	FY2020	FY2021
償却費	72	86
	2020年12月末	2021年3月末
開発資産残高	531	562

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
**資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
また、2020年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています
（FY2020通期：129億円、FY2021通期：394億円、FY2022通期見通し：100億円）